

# 2022 年度事業計画

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

## I 基本方針

- 1, 設立者柳宗悦の思想について理解を深めつつ発展的に継承し、調和的社会的実現を目指す活動を行う。
- 2, 当館の特性を活かした質の高い展覧会を開催し、民藝に関する認識の普及に努める。
- 3, 展示室や収蔵庫の環境整備を行って貴重な蒐集品を保存管理し、併せて民藝に関する資料や情報のアーカイブ化を推進して次代に継承する。
- 4, 所蔵品の貸与や民藝に関する情報提供を通して国内外の美術館との連携を図り、文化交流の促進に寄与する。
- 5, 伝統的な手仕事の保存と新しい生活工芸の発展とを図るために、その製作にかかわる工人の育成に貢献する。
- 6, 我が国の文化史上重要な建物として東京都指定有形文化財に指定された日本民藝館本館及び西館を維持管理し、その活用を図りながら生活文化の発展に寄与する。

## II 事業

### 1. 展示活動及び調査研究と情報収集・提供に関する事業

#### 1) 2022 年度開催の展覧会

- ・ 仏教絵画—浄土信仰の絵画と柳宗悦

会期：2022 年 3 月 31 日（木）～ 6 月 12 日（日） 64 日間

- ・ 復帰 50 年記念 沖縄の美

会期：2022 年 6 月 23 日（木）～ 8 月 21 日（日） 52 日間

- ・ 柳宗悦と朝鮮の工芸 —陶磁器の美に導かれて

会期：2022 年 9 月 1 日（木）～11 月 23 日（水） 72 日間

- ・ 日本民藝館展 —新作工藝公募展—

会期：2022 年 12 月 10 日（土）～12 月 25 日（日） 14 日間

公募作品の審査・表彰及び分野別講評会の実施

- ・ 生誕 100 年 —柚木沙弥郎展

会期：2023 年 1 月 13 日（金）～4 月 2 日（日） 69 日間

- ・ 展覧会記念講演

\* 各展覧会の記念講演は、感染状況に応じて対面又はリモートによる講演会を企画する。

#### 2) 調査・研究及び情報収集・提供に関する事業

- ・ 所蔵品の調査・研究を基にした情報を整理し、展覧会等に供する。

(「仏教絵画—浄土信仰の絵画」展の関連図録として、展示作品及び柳宗悦の未公開原稿を紹介)

- ・ Web サイトにて展覧会に関わる情報を随時提供する。

#### 3) 資料・文献などの保存管理と活用

- ・ 文献資料・図書類のデータベースのデータ更新を継続する。

### 2. 民藝の普及・振興に関する事業

- 1) 各地美術館及び他民藝館への所蔵品の貸与及び共同企画への参画
  - ・所蔵品の国内外の美術館・企業等への貸出や、共同企画展への参加を通して民藝の普及を行う。  
(岩手県立美術館/福島県立美術館/東京ステーションギャラリー巡回展、豊田市民芸館、無印良品浦添、女子美術大学付属美術館等への出品を予定)
- 2) 出版などのメディアによる民藝の普及活動への協力
  - ・機関誌である雑誌『民藝』への編集協力
  - ・『琉球の富』(ちくま学芸文庫から5月に刊行。沖縄返還50周年に向けて、柳宗悦の沖縄に関する主要な論稿を文庫化)
  - ・日本の伝記 知のパイオニアシリーズ『柳宗悦と美』(土田眞紀著、玉川大学出版会、7月刊行)
- 3) 各地美術館や学校及び関係団体への講師・講演協力
  - ・日本民藝協会主催の催事及び他館(民藝館や美術館)や大学等への講師(学芸員)派遣を通し、民藝運動及び日本民藝館の活動をアピールし普及・推進させる。
- 4) 博物館実習の受け入れによる現場教育の機会提供
  - ・博物館学芸員資格の習得を希望する学生に対し現場における知識・技能の習得を支援し、将来の美術館活動を担う人材の育成に協力する。  
実習生数：約15人程度 実習期間：10日間(講義4日、実務実習6日)
- 5) 「日本民藝館友の会・維持会及びキャンパスメンバーズ」会員への情報提供と入会の案内
  - ・会員や一般を対象としたセミナー、見学会など定期的な開催を企画していく。
  - ・会員に情報「日本民藝館の特別展・記念講演・見学会の案内」を定期的に送付する。
- 6) 小学校を中心とする学校との連携による美術館教育などの教育普及活動
  - ・民藝の普及活動の一環として、小学生を主対象とした鑑賞教室などの企画・運営を行う。
- 7) 関連団体との連携
  - ・他館との情報交換や近隣施設との活動の連携に努め、展覧会資料の配布などでPR強化を図る。
  - ・他の美術館や関連団体との連携や展覧会の充実化を図る。
- 8) 国際文化交流に関する事業
  - ・国際交流基金の企画制作による、テーマ別にピックアップした国内の美術館24館を紹介する映像作品に参加。今後、国際交流基金のYouTubeで全世界に配信される予定(5か国語)
  - ・2025年秋に国立グスタフスベリ陶芸美術館(スウェーデン)にて開催予定の展覧会「濱田庄司とウィルヘルム・コーゲ」(仮)準備のための調査受け入れ。
  - ・「柳宗悦と朝鮮の工芸 一陶磁器の美に導かれて」の記念催事として、日本民藝館所蔵の柳宗悦の朝鮮関連記録資料に関する展覧会(シンポジウム含む)を、東京芸術大学の学術協力のもと韓国国外所在文化財財団の協力を得て、韓国文化院との共催で9月14日から10月1日の予定で開催する。

### 3. 民藝に携わる工人の育成及び協力・支援に関する事業

- ・日本民藝館展の開催(新作工芸公募展)
  - ① 出展公募：新作工芸品の制作者および協力制作者を対象に作品を公募し、その選考を通して出品者を顕彰、併せて講評会を実施して、製作者の育成支援を促進する。
  - ② 入選作の展示公開と即売  
選考された優秀な作品を大展示室で展示公開する。また、入選作品の即売を通して作り手を支援し、世の中に優れた新作工芸品を普及させる。

③出品者を対象にした審査講評のオンライン配信の継続化を検討する。

#### 4. 広報活動・運営管理の向上に関する事業など

##### 1) 広報活動

- ・ Web サイト及び駅貼り有料ポスターによる展覧会情報の発信  
展覧会や各種催事の情報をホームページやソーシャルメディアを通して発信するとともに、EC サイト（インターネット上で商品販売）の活用を進めていく。
- ・ マスメディアの情報による集客強化  
館の展覧会・催事について、TV、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット情報誌などの多方面にわたるマスコミ取材に積極的に対応し、情報提供の周知化を継続的に進める。
- ・ プレス及び関係者向けの情報発信の実施
- ・ 弊館の歴史やコレクションを紹介する映像資料の視聴提供を継続する。
- ・ 展覧会の特性に応じ、インスタグラム撮影スポットのブースを設置し、来館者の情報発信を促す。

##### 2) 来館者の安全・安心に向けた対応

- ・ 前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の防止・予防対策の強化を継続的に行う。
- ・ 展覧会の特性に応じ、日時指定予約システム等を引き続き活用し、入館待ち時間の軽減と館内の混雑緩和を図る。（対象は主に日本民藝館展等）

以上